

第 51 回戦跡ハイキング

大阪市大正区・渡し船に乗って、かつてあった大工場跡を訪ねる旅

11月12日(土)午前9時15分、JR環状線大正駅に8名が集合し、大正区の小さな旅を楽しんできました。ガイドはいつもお願いしています森田敏彦さん(元府立高校教諭)。大阪市大正区には今も7か所の市営の渡し船(無料)が運航され、市民の貴重な足となっています。今回もその渡し船とバスを乗り継いで海と川に囲まれた大正区を歩いてきました。渡船場は落合上、木津川、船町の三か所、私たち以外にも高校生や家族連れの方も見られ渡し船の利用者は多いようです。今回は大阪紡績会社跡、栗本鉄工所発祥の地碑、木津川飛行場跡、藤永田造船所跡、日本GM工場跡など、かつてあった大工場跡がメインで、戦前の大正区の雰囲気を知ることができました。昼食は大正区南恩加島の沖縄料理の「うるま御殿」で、沖縄の歌も楽しむことができました。初参加の太田さんは熱心にメモを取りながらの有意義な大正区歩きであったようです。(大西)

〈参加者〉福島2名、大阪志峰1名、こもればい1名、豊中1名、八尾1名
なにわこぶし1名、泉州1名 計8名



落合上渡船



昼食は大正区・うるま御殿で

落合上渡船は、大正区千島1丁目と西成区北津守4丁目を結んでいます(岩壁間100m)。大正区側は旧町名を「新炭屋町(しんすみやちょう)」と言い、宝暦13年(1763年)に大坂瓦町居住の炭屋三郎兵衛によって開発された「炭屋新田」のあったところです。明治以降も鉄工所や造船所等の企業が立地するとともに、北方の三軒家方面へ道が延びていました。また、関西随一の木材市場を支えた「大正運河」(現在は埋立てられ千島公園の下になっています)の木津川の入口もこの渡しの南側にありました。上流にある木津川水門(防潮)は、常時開いているが、毎月1回程度開閉試験運転のため閉められます。

戦跡ハイキングに参加して

豊中 労山 太田 誠治

大正区の渡船場と工場地帯を巡るところに魅力を感じ初めて参加させていただきました。今回三軒家界限と鶴町・船町の工業地帯の2つの地域を巡りました。三軒家界限では木津川沿いに新田開発により農作物を生産された地域、中村勘助の活躍など歴史的な出来事、時代背景を森田先生にわかりやすく解説していただきました。三軒家公園付近は近代紡績工業の発祥の地、大阪紡績（のちの東洋紡）がありました。「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほど紡績・繊維で栄えた時代・場所なのですが反面「女工哀史」と呼ばれる女子工員に対する苛酷な労働環境を強いられた、犠牲者も出た側面もあり歴史の光と影の部分も遠慮なく解説されました。

鶴町・船町工場群では大正から昭和初期にかけて木津川飛行場や日本ゼネラル・モーターズの工場がかつて存在していました。時代に先駆けた、現在につながる事業をしていたのだと思いました。大正区は軍需工場があったこともあり区の1/3が焼失、人口減少率約73%と高い地域だったそうです。訪れたコースのほとんどは知らない戦跡・史跡でしたので大変興味深く巡ることが出来ました。また直接解説していただくことでより当時の状況を身近に感じました。そして後世に語り伝えるために碑・史跡は大事なモノだと思います。コース付近の公園広場では多くの親子連れが賑わい、子供達が野球をして遊んでいました。今回のハイクを訪れて、あらためて大切な風景だと感じました。ありがとうございました。